



WHITE PAPER 01

1画面の改善で業務が変わる

— 現場担当者から始めるUI/UX改善の第一歩 —

なぜ今、 UI/UX改善なのか

デジタルツールの導入が加速する一方、多くの企業で「業務効率が上がらない」「システムが使いにくい」といった現場の声が絶えません。

日本企業の約60%がDX推進後も業務効率向上を実感できていないとする調査結果もあり、その要因のひとつがUI/UXの軽視にあります。

複雑なシステム構造、分かりづらい画面遷移、非直感的な操作体系——こうした課題は現場の作業時間を増やし、教育コストやエラー対応の負担を生みます。

本ホワイトペーパーでは、現場担当者が小さな一歩から企業全体を変えるためのヒントを紹介します。

出典: 経済産業省「DXレポート2」、Nielsen Norman Group



DX推進の陰に潜む “使いにくさ”

新しいシステムの導入で現場業務が楽になるはずが、逆に作業が煩雑になっているケースが多く見られます。

ある金融企業では、業務フローがシステムに合わせて複雑化し、現場担当者の約3割が「日常業務におけるストレスの主要因」と回答していました。

操作方法を覚える負担、ミスによる修正対応、増加するヘルプデスクへの問い合わせ——こうした「見えないコスト」が積み重なると、生産性の低下だけでなく、従業員満足度の低下にも直結します。

私たちは支援現場で、このような声を数多く耳にしてきました。



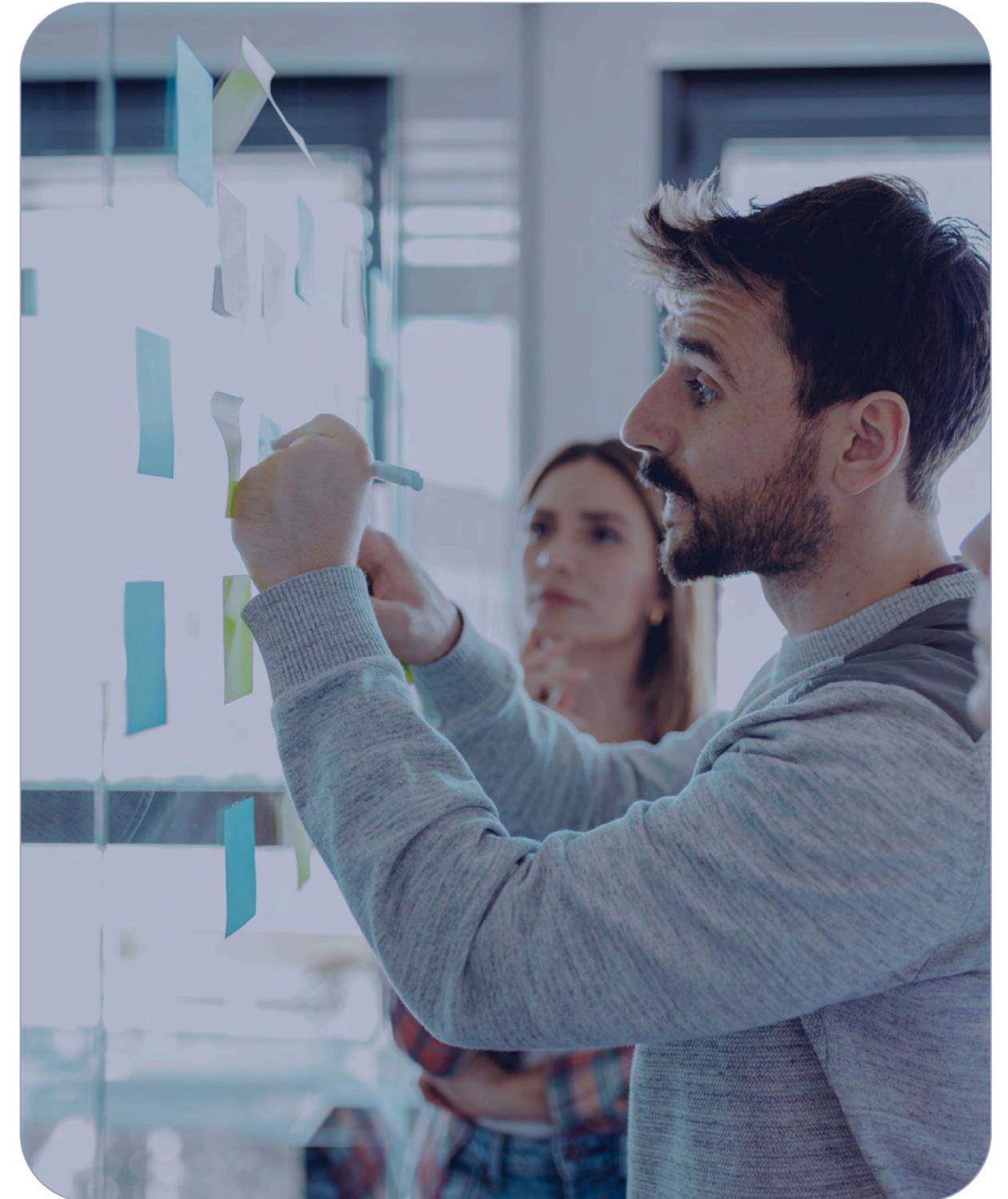
デザイン主導で成長 する企業の共通点

AmazonやAirbnbなどの海外企業は、UI/UXに年間数億円規模の投資を行い、業務効率や顧客体験の向上を実現しています。

一方、日本企業では「まず機能を完成させる」という意識が根強く、UI/UXへの投資が後回しになりがちです。

しかし、初期段階でUXへ投資する方が、後から修正するよりも圧倒的に効率的です。調査によれば、開発後のUI改修は初期設計時に比べて平均5倍のコストがかかるとされています。

こうした差は、やがて企業の競争力に大きな影響を与えます。



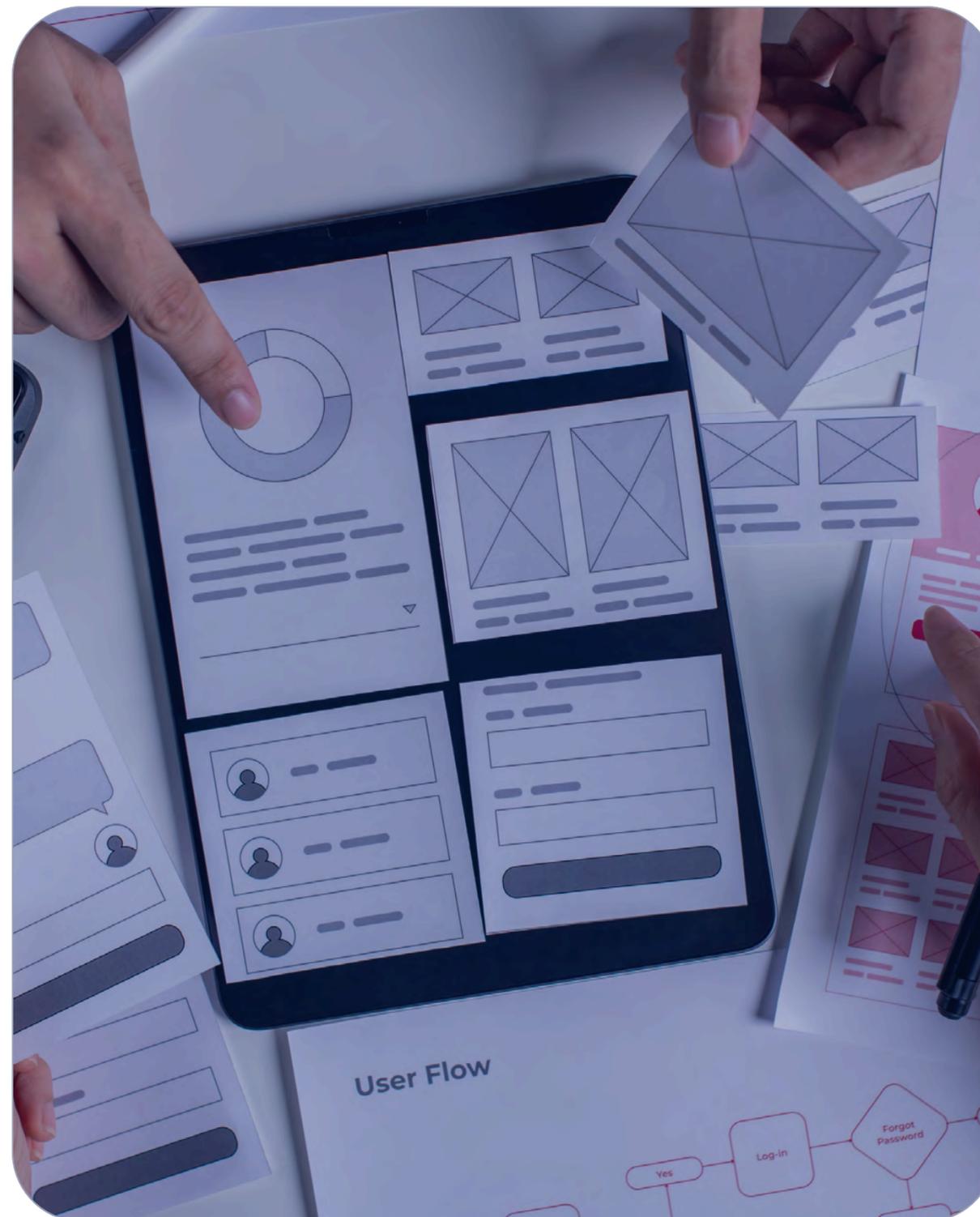
出典: Forrester Research 「The ROI of UX」

1画面の見直しが 業務を変える

ある大手小売業では、社内システムのUIが複雑で、新入社員が業務に習熟するまで平均6ヶ月を要していました。さらに、日々の操作ミスが頻発し、ヘルプデスクには月間200件以上の問い合わせが寄せられていたのです。

Highlight導入後、操作フローの簡略化やボタン配置の見直しを実施。その結果、問い合わせ件数は半減し、新人研修期間も3ヶ月に短縮されました。
このように、たった1画面の改善でも業務全体に波及効果をもたらすことがあります。

出典: アーキビジョンUI/UX支援事例 (匿名化)



一度きりの改修では 足りない理由

多くの企業が直面するのは、単発のUI改修で課題が解決したと思い込むことです。しかし、業務やシステムは時間とともに変化し、再び「使いにくさ」が生じることが少なくありません。

Highlightでは以下の6ステップで改善サイクルを構築し、継続的な効果を実現します。

- Step1: 課題抽出—ユーザーテストや現場ヒアリングでボトルネックを特定
- Step2: 設計・実施—最適な情報設計とUI案を策定
- Step3: プロトタイプ作成—動作イメージを共有し、関係者間で認識を統一
- Step4: ユーザーテスト—仮説を検証し改善点を優先順位付け
- Step5: 実装連携—エンジニアと連携し、スムーズな実装を支援
- Step6: 効果測定—KPIによる改善効果を可視化し、次フェーズへ反映

出典: Nielsen Norman Group 「UX Lifecycle Management」



現場に根ざした 三位一体の支援

Highlightは「業務分析×デザイン×エンジニアリング」の三位一体アプローチにより、現場の課題を本質から解決します。

UIの改善案は視覚的にわかりやすい形で提示され、関係者間の合意形成を促進。効果測定に基づく次の改善提案まで一貫して支援します。

あるITサービス企業では、各部署で異なっていた画面設計ルールを統一。これによりメンテナンスコストが30%削減され、現場担当者からは「作業の迷いが減った」との声が上がりました。

出典: アーキビジョンUI/UX支援事例 (匿名化)

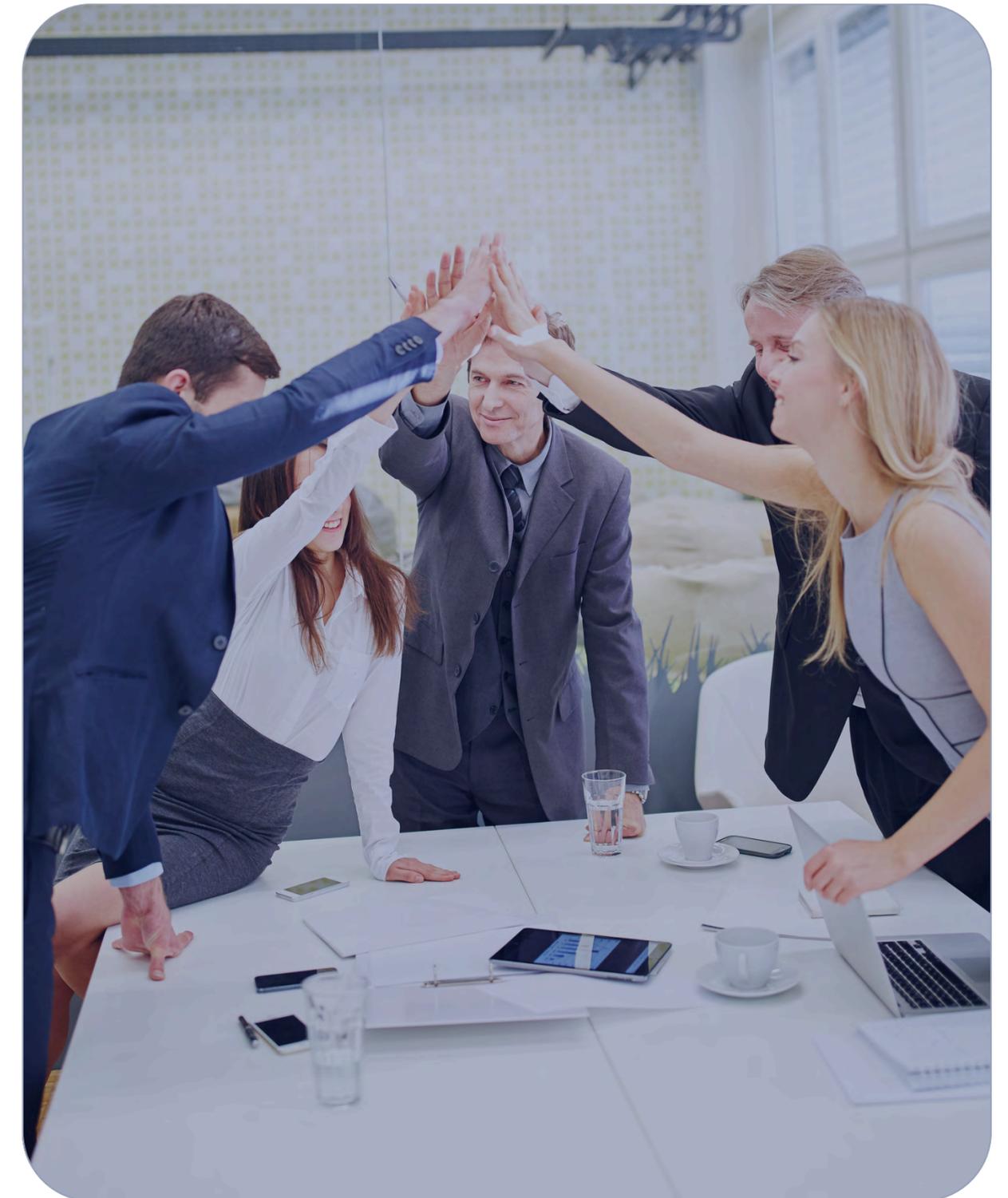


1,290万円の コスト削減事例

外部デザイナー依存では年間1,710万円かかる改善が、Highlight導入により420万円に削減された事例もあります。

この企業では、改善案の形式化とKPIレポートによって現場の成果が経営層に伝わりやすくなり、UI/UX投資の意思決定が加速しました。

投資対効果が見えることで、現場の提案が「一過性の改善」ではなく「企業文化としての改善」へと進化しています。



出典: アーキビジョンUI/UX支援事例 (匿名化)

使いやすさが成果と競争力を左右する

UI/UX改善は、現場から始まります。Highlightは現場の声を経営層に届ける「橋渡し役」として機能し、現場担当者の小さな提案を大きな変革へとつなげます。あなたの一歩が、企業全体の業務改善と競争力向上の起点になります。

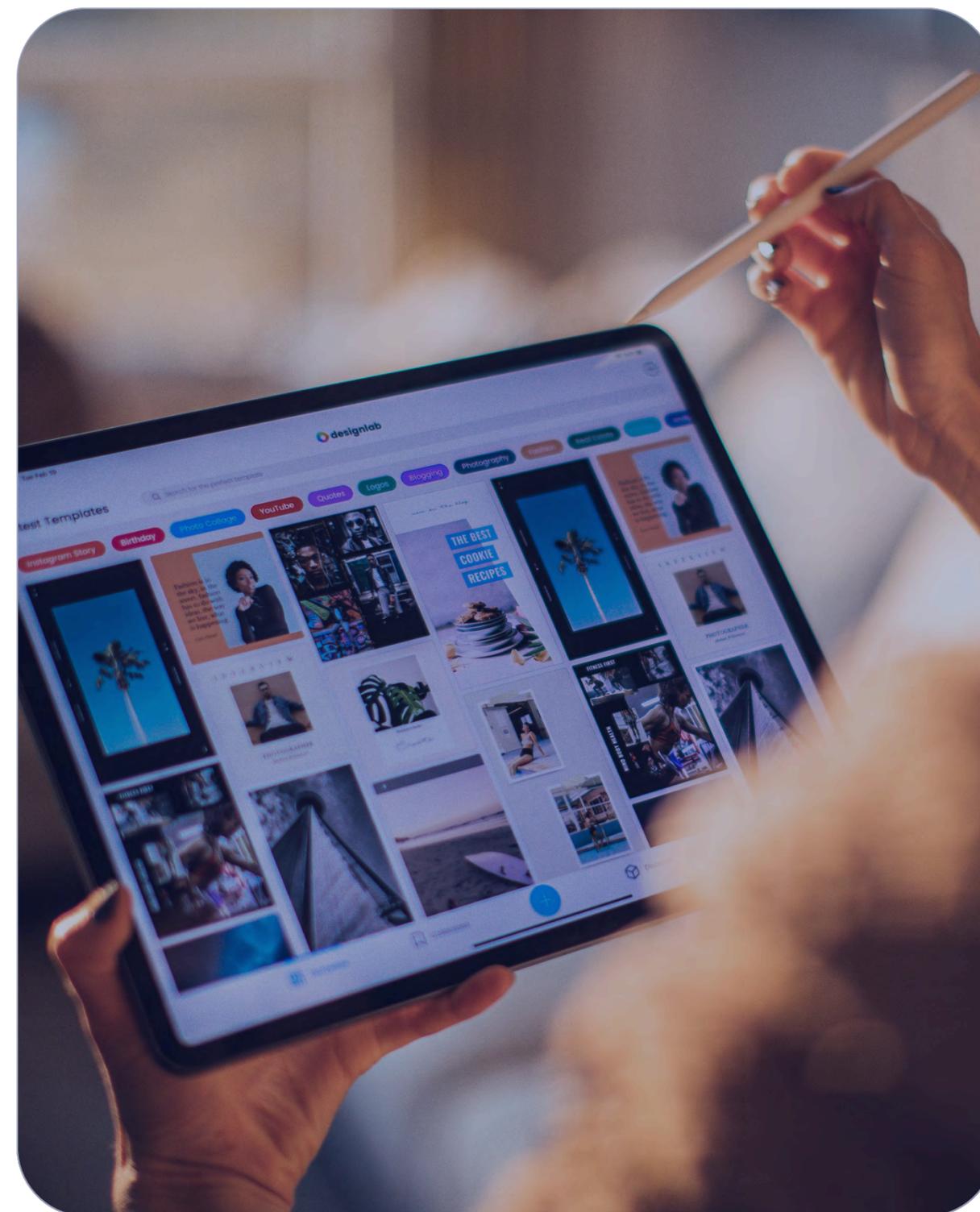


たった1画面の診断から 始めるUI/UX改善

Highlightは、現状のUI/UXを50項目の独自チェックシートで分析する無料診断を提供しています。

この診断では課題の可視化だけでなく、改善によって期待される効果も提示。「まずは1画面から」企業全体の変化を体感してください。

無料診断は、ニールセン博士の「ユーザビリティ10原則」に基づき、Highlightが独自開発した50項目チェックシートを用いたヒューリスティック分析です。総合スコアと評価ランクを含む全3ページの診断レポートを初回限定で無償提供。





使いやすさは、 あとまわしにしない。

まずは無料診断から始めてみませんか？

<https://highlight-uiux.com/>



スマホでもすぐにアクセス

運営会社 アーキビジョン株式会社 「心おどる一步先のクリエイションを」。UI/UXに特化したクリエイティブエンジニアリング会社として、18年以上にわたり業務系システムやSaaS、
<https://archvision.jp> モバイルアプリまで幅広いデジタルソリューションの設計・改善を手がけています。